―介護ビジネスの未来を創る―
週刊 高齢者住宅新聞
Elderly Press Newspaper

2022年（令和4年）
3月2日
第662号（毎週水曜日発行）

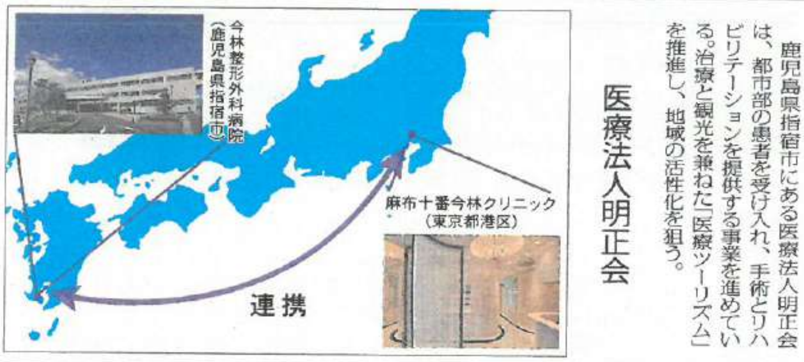
（株）高齢者住宅新聞社
〒104-0061
東京都中央区銀座8-12-15
☎03-3543-6852（編集部）
発行人 網谷敏数
年間購読料 23,100円（送料込・税込）
ホームページ
https://koureisha-jutaku.com

医療観光で街おこし

指宿市で 慶大医学部と連携

医療法人明正会

鹿児島県指宿市にある医療法人明正会は、都市部の患者を受け入れ、手術とリハビリテーションを提供する事業を進めている。治療と観光を兼ねた「医療ツーリズム」を推進し、地域の活性化を狙う。



今林恵美理事

法人の中核となる今林整形外科病院（鹿児島県指宿市）は、一般病棟50床（内、地域包括ケア病床20床）、回復期リハビリテーション病棟60床の病院。診療科目は整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科で、特に脊椎の疾患に対して専門性の高い医師が在籍している。関連施設として、リハビリクリニック、老健のほか、東京都港区でクリニックを運営している。

同院の強みは、脊椎・脊髄診療において専門的な知見を持つ、慶應義塾大学医学部整形外科脊椎・脊髄班との連携だ。脊椎・脊髄班は、「片開き式頸部脊柱管拡大術」、「経皮的髄核摘出術」などの、先進的な手術術式を考案。年間手術数は500件を超えるなど、脊椎・脊髄診療で指導的な立場にある。

リハ職42名在籍

第1、3、5週の火曜日に、慶応義塾大学病院整形外科医局准教授の渡辺航太医師が診察を行っており、予約すれば紹介状不要で治療を受けることができる。今林整形外科病院の理事長でもある今林正典理事長は慶應大学医学部出身で、渡辺医師と縁があったことから、この連携が生まれたという。

また、2017年から、首都圏や都市部の患者を受け入れる事業を段階的にスタートした。東京のクリックを受診する患者が渡辺医師による治療を希望する場合に、今林整形外科病院を紹介し、そこで手術、リハビリを受けることができる。今のところ移動は自費だが、今後空港から病院までの送迎車を運行する予定だ。

基本的には手術、リハビリのセットで提供し、術後は迅速にリハビリを開始できる。同院には、理学療法士や作業療法士などの42名の専門職が在籍。チームで医療とリハビリを提供する。指宿市という立地を生かし、法人施設に温泉を完備。また、徒歩圏内には鹿児島湾に面する風光明媚な公園もある。気候も比較的温暖だ。リハビリのモチベーションにつながる環境が整っている。

この事業を推進する今林恵美理事は、「慶應大学では患者が多すぎ、新患の受け入れがほとんど止まっている状態でした。治療を受けるまで数年待ち、というケースもあると聞き、それなら、今林整形外科病院で患者を受け入れようと考えました」と、この事業のきっかけについて話す。

温泉地でリハビリ 食事も「地元」の味に

併せて、医療ツーリズムの進展による地域の活性化も目指している。指宿市はリゾート地として発展。1950年には約7万人まで人口が増加したが、その後減少に転じ2021年には約4万人となった。現役世代が減少する反面、高齢者数は増加。45年には高齢化率が44％を越える見込みだ。街の衰退と共に、病院の経営も危うくなることもある。地域のインフラである医療提供体制を守るためにも、医療ツーリズムで新たな患者に対応する。

今後は、さらなる受け入れ人数増加に向け、ハード、ソフトをさらに拡充させる。

「委託していた食事を自社に切り替えました。より、地元の味を楽しめる食事を提供できるようにするためです」（今林理事）。将来には回復期、維持期のリハビリの受け入れもする予定だ。

TOPICS
ニュース・総合 2面
「ICTで介護の質向上」
介護BIZ 3～10面
高住連セミナー ICT化推進の効用
低栄養プロテイン麺
「理想の最期」実現 施設で葬儀
特養で紙オムツ使わないケア
医療 11面
難病への理解深めたい・前編
行政・ネットワーク 12面
小多機で若年性認知症に対応
商材・サービス 13～15面
エコナビスタ
AI睡眠センサー開発
関西 17・18面
豊中に地域密着型複合施設
ヘルスケアフォーカス 20面
非接触の自動引き戸

施設療養に追加支援

補助額最大30万円に

厚労省

厚生労働省老健局は2月17日の事務連絡で、高齢者施設などにおける新型コロナ感染者の施設内療養について、支援の拡充を発表した。療養者1人につき最大30万円を補助する。

昨年4月1日より、病床逼迫などにより施設内療養となった場合は、療養者1人につき15万円を補助することとなっていた。今回はそれに加えて、療養者1人につき1万円／日の追加補助がなされる。補助額は、既存のものと追加分を合わせて最大30万円となる。

「まん防」地域など対象

対象となるのは、緊急事態措置またはまん延防止等重点措置が適用されている地域の施設で、定員29名以下の小規模施設の場合は2名以上、定員30名以上の大規模施設の場合は5名以上施設内療養者がいる場合。なお、追加補助の上限額は小規模施設が200万円、大規模施設が500万円だ。地域医療介護総合確保基金の事業として実施される。補助を受けるには、都道府県への申請が必要。追加補助は今年1月9日にさかのぼって適用される。

厚労省のまとめでは社会福祉施設などで療養している新型コロナ感染者は、16日時点で5514名となっている。1月12日の調査ではその数は80名であったが、1月末より増加。1月26日で867名、2月2日で2790名、9日で4422名と、この1ヵ月で急増したことが分かる。増加の一途をたどる施設内療養のケースへの早急な支援が求められている。

介より始めよ

2月24日、北京パラリンピック日本選手団の団結式が行われた。総勢73名の選手の代表を務めるのはアルペンスキー女子の村岡桃佳選手。式にて「北京オリンピックで果敢にチャレンジする選手の姿は国民に大きな感動を与えた。その流れを絶やさぬよう、全力で戦いぬく」と抱負を述べた。▽村岡選手は4歳の時に発症した病の影響で両下肢に麻痺があり、車椅子生活を送っている。一時期は引きこもりがちになったが、チェアースキーヤーの森井大輝への憧れなどから、競技スキーに魅せられるようになった。選手としては、パラリンピックをはじめ数々の大会で輝かしい成績を残している。▽所属チームのYouTubeチャンネルにて「レースを楽しむことを目標にパラリンピックに全力で臨みたい」と語る村岡選手。苦境やプレッシャーさえも「楽しむ」力が、最強の武器となっているのだろう。

3月2日以降の主な動き

3月2日（水）
○公益財団法人介護労働安定センター「介護職のためのLIFE（科学的介護情報システム）の理解（第1回）」（会場／千葉県 千葉市文化センター5階セミナー室）

3月3日（木）
○高齢者住宅新聞社「24年同時改定を見据えた生き残り戦略とは～コミュニケーションロボットの現状と新たな役割～」
※オンライン開催

○国立研究開発法人日本医療研究開発機構「開発を加速するガイダンス・マニュアル等の徹底活用：実践編」
※オンライン開催

3月4日（金）
○一般社団法人日本医学会連合「日本医学会連合 第4回社会医学若手フォーラム」
※オンライン開催

○一般社団法人全国地域医業研究会「クリニック開業 資金調達のポイント」
※オンライン開催